

事業再評価シート

事業名	総合流域防災事業		
箇所名	二級河川福島川水系天神川	市町村名	串間市

(上段は前回評価、下段は今回評価)

実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 交付金 <input type="checkbox"/> 県単			
事業期間	採択年度	再評価年度	完了予定年度	
	H14	H28	R3	
		R3	R7	
事業進捗	全体事業費 (百万円)	既設投資額 (百万円)	進捗率 (%)	
	2,300	1,434	事業費	用地
	2,300	1,501	62.3	67.1
再評価の概要	対象選定理由		事業効果 (B/C)	対応方針原案
	再評価後5年経過		2.15	継続
	再評価後5年経過		2.47	継続

全体計画

天神川は、川幅が狭く、流下能力が劣る箇所があるため、平成2年や平成12年など頻繁に豪雨による洪水にみまわれ、市街地の平野部を中心に、浸水被害が発生した。
このため、JR日南線鉄道橋から天神橋までの1.0km区間において、平成14年度から統合二級河川整備事業として河川改修に着手し、平成17年度からは総合流域防災事業にて整備を進めている。

※ 福島川水系河川整備基本方針：平成16年 3月30日策定
福島川水系河川整備計画：平成16年 9月22日策定

事業概要

JR橋から天神橋までの区間について、主に河道掘削、堤防・護岸整備を実施し、流下能力の向上を図る。
改修延長 L=1,000m
総事業費 2,300百万円
計画規模 60m³/s：JR日南橋(概ね50年に1回程度発生する洪水規模)
事業内容 河道拡幅、堤防・護岸整備、橋梁の架替等

事業目的

○対象事業の目的、必要性

天神川は馬場川合流点より、JR橋付近までは改修されている。しかしこれより上流は未改修であり、河積が狭小なため出水のたびに家屋の浸水被害が生じている。このため、河積を拡大し流下能力の増大をはかり、堤内の浸水を防止する。

平成28年9月の豪雨でも浸水被害が発生しており、流域住民からも早期改修の要望が強く、治水安全度を早期に向上させる必要がある。

○計画での位置付け

天神川の改修計画は、平成16年9月22日に策定した福島川水系河川整備計画に位置づけられている。

○他事業との関連性・事業による効果

天神川は、串間市中心地を流下しており、河道が狭小なため浸水被害が頻発していることから、昭和43年度～55年度において福島川合流点からJR日南線までの約1.5km区間の小規模河川改修事業を完了させている。

○事業を継続する必要性

用地買収を継続中で河道が未改修であることから、河道の流下能力は依然として低い状態であるため、河川改修を引き続き実施する必要がある。

事業の進捗状況

○現在の事業進捗、整備効果の発現状況

平成27年度迄に、JR日南線～平橋下流まで用地買収がほぼ完了しているが、一部区間において用地交渉が難航しているため、整備効果の発現が図れていない。

なお、国道220号の松清橋架替工事が概成した。

○今後の事業進捗の見込み

今後も用地交渉を継続し用地取得に努める。

○事業が長期化している理由

一部区間において用地交渉が難航しているため、松清橋上流の河道拡幅に着手できず、事業の完了年度が遅れている。

社会情勢等の変化

○事業を取り巻く社会情勢等の変化

天神川は、串間市の市街地を貫流しており、度々の出水により家屋浸水被害が発生している。

また、改修区間は、串間市街地の西部に位置しこの地区は都市化が進展しているため、流域住民からも早期河川改修の要望がある。

○災害等の発生状況

平成2年9月（台風20号）	床上浸水14戸、床下浸水43戸、浸水面積約5ha
平成5年9月（台風13号）	床上浸水8戸、床下浸水24戸、浸水面積約5ha
平成9年9月（台風19号）	床上浸水8戸、床下浸水16戸、浸水面積約5ha
平成12年6月（梅雨前線）	床上浸水15戸、床下浸水18戸、浸水面積約3ha
平成13年6月（梅雨前線）	床上浸水7戸、床下浸水21戸、浸水面積約3ha
平成16年10月（台風23号）	床上浸水0戸、床下浸水6戸、浸水面積約1ha
平成17年9月（台風14号）	床上浸水3戸、床下浸水31戸、浸水面積約1ha
平成28年9月（豪雨）	浸水面積約1.6ha

○環境保全に対する取り組み

旧河川敷については、改修後の河道に取り込み、親水性の確保に努める等、自然環境の保全を図っていく。

事業効果の分析

○費用対効果

費用対効果は、 $B/C=2.47$ であり、事業効果は高い。

○事業を継続することの事業効果分析

事業継続により、現在整備を進めている天神川の河川改修を促進し、流下能力の確保を図ることにより洪水被害を軽減し、安全で安心して暮らせる社会づくりが推進される。

コスト縮減

掘削土の他事業への流用など、他事業とも連携を図りながらコスト縮減に努めていく。

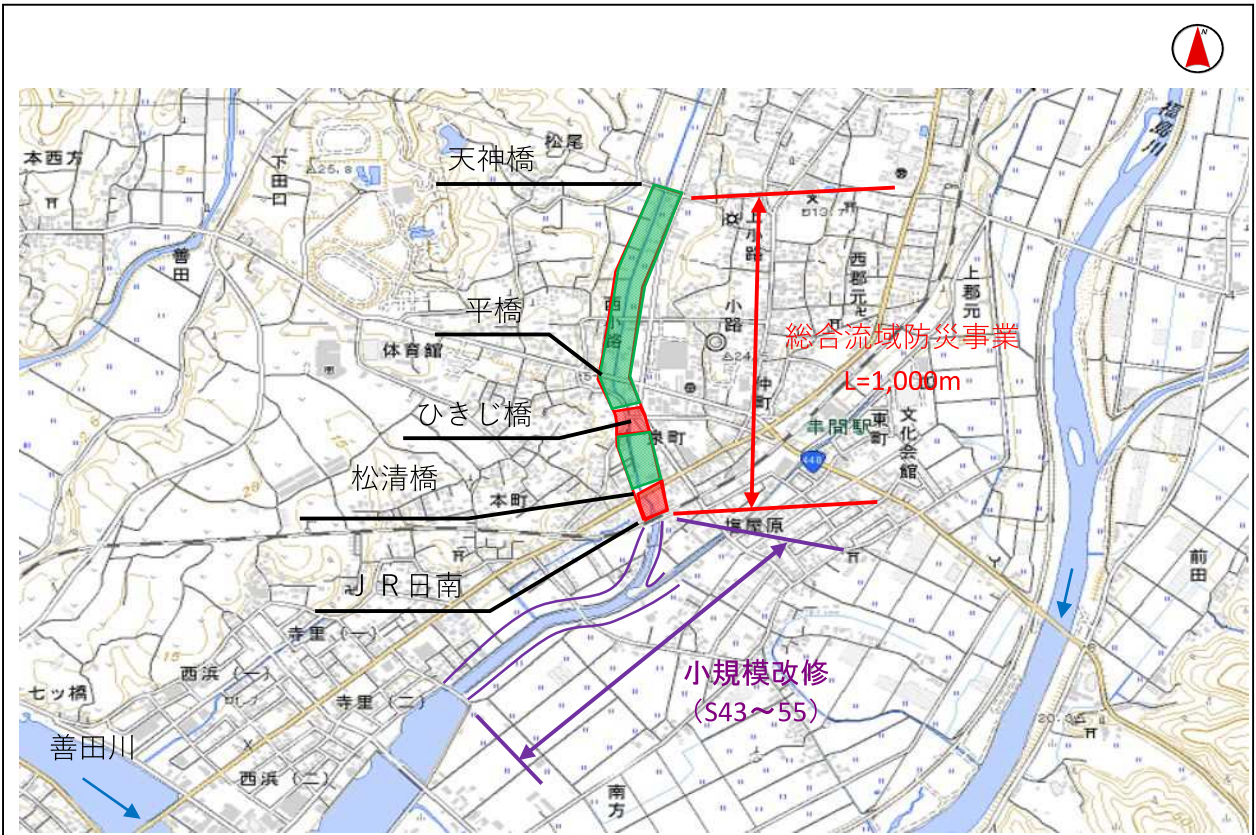
代替案の可能性



現状の計画である河床掘削及び河道拡幅案の代替案として、遊水池案、放水路案を検討したが、市街地を流れる天神川では、取得できる用地にも制限があることや、事業費が増大してしまう等の理由により、現況案が最も適した案である。

対応方針

継続

位置図(管内図)



凡 例	
	令和3年度まで 施工済
	令和4年度以降 施工予定

